

報道機関 各位

垂水市記者発表（令和7年9月10日付）

戦後80年文化財保護事業

鹿児島大学との連携による戦争遺跡調査
及び 高大連携ワークショップ

を開催します。

下記のとおり開催いたしますので、取材方よろしくお願いたします。

■資料 本紙を含む3枚

■日時 高大連携ワークショップ：令和7年9月17日（水） 10：00～16：00 ※雨天時は19日

浜平地区戦争遺跡調査：令和7年9月18日（木） 10：00～17：00

■場所 鹿児島県垂水市浜平2036-6（道の駅たるみずはまびら地内 ほか）

■趣旨 垂水市教育委員会では、戦後80年を迎えた令和7年度の文化財事業として、国立大学法人鹿児島大学及び鹿児島県立垂水高等学校と連携し、市内戦争遺跡の悉皆調査を行っています。9月17日には、高校生と大学生による浜平地区戦争遺跡の合同調査と、調査参加者らによるワークショップを開催いたします。また、翌18日には、道の駅たるみずはまびら前の海中にある戦争遺跡、「魚雷航跡監視台場跡」の三次元計測などを行います。

■調査期間 高校・大学・市の三者連携事業自体は、令和8年2月頃まで継続して行われます。

令和8年2月8日（日）には、垂水市内にて成果報告会を予定しています。

■17日の内容 10：00～12：00 浜平地区合同調査（市専門員による紹介・3D計測・撮影など）

13：00～16：00 道の駅の一室にてワークショップ

■18日の内容 10：00～17：00 魚雷航跡監視台場跡の調査（3D計測・水中写真・測量など）

■問い合わせ先・情報発信元

垂水市教育委員会社会教育課 ☎0994-32-7551 高嶺

戦後80年 文化財保護事業 垂水市戦争遺跡悉皆調査

- ▶ 垂水市では、戦後80年を迎えた令和7年度における文化財保護事業として、市内戦争遺跡の悉皆調査を実施している。
- ▶ 本事業は、国立大学法人鹿児島大学との包括連携事業として実施している。
- ▶ あわせて、鹿児島県立垂水高等学校との高大連携事業としても位置付け、三者合同での調査を行っている。
- ▶ 9月17日においては、道の駅たるみずはまびら近辺における合同調査と、参加者が学びを深めるためのワークショップを開催。
- ▶ 今後は、令和8年2月8日に、垂水市市民館にて、成果発表会を実施予定。

現地調査

市内の戦争遺跡屋遺物に対して、計測・撮影・分析を行い、学術的な基礎資料の蓄積を行います。

地域還元

シンポジウムやパンフレット作成を行い、地域の方々へ調査成果を公開します。

魅力発見

新たな地域資源として戦争遺跡をとらえなおし、基礎資料を蓄積することで、将来的な地域の発展に寄与します。

基礎データ構築

調べた戦争遺跡のマッピングや3Dデータの作成など、今後の調査研究に資するデータを構築します。

教育普及

大学における調査研究のフィールドとして、垂水市を活用します。
高校の探究学習として、歴史や戦争、文化財というテーマを活用します。

聞き取り調査

当時を知る地域の方々からお話を伺い、リアルな歴史を紐解き、証言を未来へ記録します。

【ワークショップ等の実施について】

道の駅たるみずはまびら内の一室にて、高大ワークショップの開催（17日）、海中の戦争遺跡「魚雷航跡監視台場跡」の計測（18日）を予定。

遺跡の普及啓発・活用の観点から、周知広報における各メディアのご協力をいただきたく思います。

お問い合わせ先

垂水市教育委員会社会教育課文化スポーツ係（☎0994-32-7551）

令和7年9月17日水曜日
高大官三者連携事業 垂水市戦争遺跡調査
市内遺跡踏査/ワークショップについて

- ▶ 9月17日（水）10：00 から 16：00ごろまで
- ▶ 移動の際には徒歩または車を使用
- ▶ ワークショップの際は道の駅たるみずはまびら地内の一室を使用。
- ▶ 当日はメディアによる取材も想定される。

【浜平地区内戦争遺跡踏査】10：30 から 12：00

- ①魚雷航跡監視台場跡（道の駅たるみずはまびら地内）
- ⇒②旧垂水海軍航空隊基地之碑
- ⇒③赤迫川地下壕群
- ⇒④浜平特殊地下壕前
- ⇒⑤道の駅たるみずはまびら

- 原則として徒歩で移動。
- 道の駅までの移動は公用車を使用。
- 大学関係者の移動は関係者車両を使用。

【ワークショップ】13：00 から 15：30

- ①戦争に関する歴史について意見交換
- ②垂水市における戦争遺跡の活用について意見交換
- ③意見のまとめと発表

- 3つの班に分け、大学生主導で意見交換
- 最後に関係者含めてアンケートを記入
- 一般の方の見学を許可するが、議論には参加させない。

【準備等】

- 机・椅子は道の駅たるみずはまびら内のものを使用。
- 必要に応じて手持ち資料を配布。
- ワークショップにおけるペンや紙類を準備。
- ワークショップの詳細については、鹿児島大学主導で勘案・準備。